

THE調査力AIの新機能と2025知財・情報フェアでの出展内容

公式情報: 製品概要と生成AI搭載の新機能

THE調査力AI（アイ・ピー・ファイン株式会社開発）は、研究開発・知財部門向けのグループウェアです。国内外の特許データを一元管理し、日本語への自動翻訳やAIによるノイズ特許判定などで特許調査業務の効率化を図ります^①^②。2025年には生成AI技術を活用した新機能が追加され、大幅なアップデートが行われました。

- ・**生成AI搭載「AIワーカー」** – 2025年に新登場した、調査業務支援のためのAIアシスタント機能です。「調べる・考える・まとめる」能力を持ち、ユーザーの指示に従って知財情報の収集・分析・要約を行います^③。AIワーカーは以下の3つの要素で構成されています:
- ・**製品情報リサーチ**: 生成AIがインターネット上の公開情報を自動収集・分析し、競合製品や関連技術の動向把握を支援します^④。特許調査のみならず、自社の権利評価やR&Dランドスケープ分析にも応用可能な機能です^⑤。
- ・**マイAIワーカー**: THE調査力AIに蓄積した社内データを選択し、生成AIへ自由な業務指示を与えられるカスタムAI機能です^⑥。ユーザーは自社のニーズに合わせてAIワーカーを“育成”し、特定の調査タスクを自動化できます。
- ・**ChatGPT要旨・キーワード作成**: 大量の特許公報から重要ポイントを素早く把握するための機能です。生成AI（ChatGPT）が各案件の要旨を約250文字で自動生成し、さらに重要キーワードを抽出します^⑦。ノイズ特許の除去や内容把握の効率アップに寄与し、一次スクリーニングを迅速化します。
- ・**外部AIツールとの連携強化** – 特許調査プロセス全体の効率と精度を高めるため、他社AIサービスとの関係も拡充されています。例えばJAICI AutoTransとのシームレス連携により、**化学分野の専門用語や化学物質名も高精度な日本語翻訳が可能になりました**^⑧。これにより海外特許の読解スピードが向上し、言語の壁を抑える効果が期待できます。
- ・**知財DX関連サービス** – THE調査力AIと併せて利用できる周辺ソリューションも提供されています。社内の研究開発情報と特許情報を統合管理する**社内知識プラットフォーム「大和（YAMATO）」**や、研究の着想から事業化までを支援する**R&DランドスケープIIC**などがラインナップされており、オープンイノベーションの羅針盤として機能します^⑨。これらは社内外の知財・技術知見を結集し、将来のイノベーション創出を後押しすることを狙ったサービスです。

2025知財・情報フェアでの出展内容 (公式発表)

アイ・ピー・ファイン株式会社は、2025年9月10日～12日に東京ビッグサイトで開催された「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」に**ブース出展（西4ホール W4-75）**しました^⑩。公式発表によれば、同社ブースの**見どころ**は次の通りです^⑤^⑧：

- ・**生成AI活用の新しいカタチ「AIワーカー」の初公開** – 上述のAIワーカー機能を中心に、新たな特許調査ワークフローの提案が行われました。「自社権利評価に！特許調査に！R&Dランドスケープに！『製品情報リサーチ』」と銘打ち、自社の特許ポートフォリオ評価から競合技術の調査まで、生成AI

で支援できる業務範囲の広さをアピールしています⁵。ブースでは来場者が実際に次世代機能を体験できるデモも用意され、「ぜひご体験ください」と案内されました¹¹。

- ・日英翻訳精度の向上 – 「JAICI AutoTrans」連携機能を紹介。とりわけ化学物質表記に強い機械翻訳として、特許明細書中の化学名称なども正確に日本語化できる点を強調していました⁸。翻訳スピードと品質の両面でメリットが得られる連携ソリューションとして注目されています。
- ・統合知財情報プラットフォーム – 「大和 (YAMATO)」および「R&DランドスケープIIC」も展示の目玉として挙げられました。YAMATOは社内の研究・知財データを横断的に集約する社内統合インテリジェンス基盤、IICはアイデア創出から特許分析までを支えるランドスケープ分析ツールとして、それぞれ紹介されています⁹。「社内知識をチカラに未来を描くイノベーションの羅針盤」として、自社内ナレッジの活用法を提案する展示でした⁹。

また、会期中にアイ・ピー・ファイン主催の企業プレゼンテーションも2件行われました。9月11日には「研究現場の情報ハブ『R&DランドスケープIIC』&知財DXラボ報告」と題した講演が開かれ、研究開発部門と知財部門をつなぐ最新DX事例や生成AI活用の社内研究報告が紹介されました¹²。続く9月12日には「生成AIで加速、無限の可能性！『AIワーカー』」と題する講演を実施し、R&D知財グループウェア「THE調査力AI」に搭載されたAIワーカー機能の詳細を解説しています¹¹。この中では製品情報リサーチ機能を用いた自社権利評価や特許調査の新手法が紹介され、聴講者は次世代機能のデモンストレーションを体感できました¹¹。いずれのプレゼンテーションも定員120名が満席となる盛況で（事前登録制、聴講無料）、来場者の高い関心を集めたようです。

ユーザー・市場の反応と評価

展示会当日の反応: 2025年の知財・情報フェアは過去最大規模となり、**158社の出展・来場者15,207名**を記録する盛況ぶりでした¹³。来場者の多くは**各社ブースでのAI関連展示の多さに驚きつつ肯定的な感想**を述べています¹⁴。「今年はAIだらけだった」「生成AIツールが本格的普及段階に入ったと実感した」などの声が聞かれ、会場は初日から熱気に包まれていました¹⁴。無料セミナーや出展者プレゼンも満席が相次ぎ、「ブース前で開催されるミニセミナーも参考になる内容が多かった」と好評です¹⁵。

とりわけ**生成AIを使ったデモンストレーションは各所で大きな人だかり**を作りました。どのブースも「特許調査の効率化」「知財業務の自動化」「AIによる分析高度化」といったキーワードで溢れ、来場者の関心も非常に高かったようです¹⁶。実際、各社のデモには活発な質問が飛び交い、「まさに今年のフェアの主役は生成AIだった」と言える盛り上がりでした¹⁷。この熱狂ぶりは**ガートナーのハイプサイクルで言う“流行期”**に相当し、AIツールの導入効果が目に見えやすいことも相まって熱気を後押ししたとの分析もあります¹⁷。アイ・ピー・ファインの「AIワーカー」に対して個別のSNS投稿やレビューを確認できたわけではありませんが、同社ブースも他社同様に**生成AIデモへの関心で賑わった**ことが推察されます。

SNS・ブログでの評判: 来場者からは総じて**ポジティブな評価**が寄せられました。実際に「最新のAI技術やサービスに直接触れられて有益だった」「業界の人脈づくりにも役立った」といった声が目立ちます¹⁸。ユニークなおもてなしを用意したブースも注目を集め、例えばGMOブランドセキュリティ社は来場者にアイスコーヒーを振る舞い、商標キャラクター「TMB45」の着ぐるみとロボットがお出迎えする趣向でSNS上でも話題になりました¹⁹。こうした各社の工夫もあり、「暑い中でも休憩しつつ展示を楽しめた」といった来場者の満足コメントがブログ等で紹介されています¹⁹。

出展者側の手応え: 出展各社も今回のフェアの成果に概ね満足しており、「想定以上に多くのお客様がブースに来てくれた」「その場で活発な商談・情報交換ができた」といった声が聞かれます²⁰。実際、前年を上回る来場者数だったことで「昨年以上の反響があった」と感じた企業も多かったようです²¹。会期中、X（旧Twitter）や公式ブログ上では「ブースにお立ち寄りいただきありがとうございました！」と感謝の発信を行う出展者も数多く見られました²²。例えば工業所有権情報・研修館（INPIT）は公式Xで「2025知財・情報

フェア&コンファレンス、大盛況のうちに終了しました…ブースへお越しいただいた皆さま、ありがとうございました！」と投稿し、多くの賛同を得ています²³。アイ・ピー・ファイン社も同様に公式チャンネルで感謝のメッセージを発信しており（※当該投稿は確認できた範囲では見つかりませんでしたが、公式ブログでの報告や口頭での謝辞があった可能性があります）、全体として「**出展者・来場者共に満足度の高い展示会**」だったと総括されています²⁴。

導入企業・ユーザーの声： THE調査力AI自体の導入実績については、公式サイト上で**大手メーカー各社の事例**が紹介されています。例えば「海外特許文献を自動で和訳し、ノイズを分類できる機能が導入の決め手に」というC社（化学メーカー）や、社内でスモールスタート導入したA社（化学メーカー）、研究現場主導で活用したB社（飲料メーカー）などのケーススタディが公開されています²⁵²⁶。具体的な社名こそ明かされていないものの、**海外特許の日本語化やノイズ特許除去による業務改善効果**が導入企業から評価されたポイントになっているようです²⁵。今回追加されたAIワーカー機能に関するユーザーの声は、リリース直後ということもありまだ目立っていません。しかし、知財業界全体では「生成AIの活用次第で今後の業務効率が大きく変わる」との期待が高まっており²⁷¹⁶、展示会で実演された新機能にも「画期的だ」「ぜひ試してみたい」といった反応が寄せられています（会話ベースの感触として）¹⁶¹⁸。今後、実際のユーザー企業から具体的な活用事例や評価コメントが発信されれば、さらに詳細な評判が明らかになってくるでしょう。

Sources:

- ・アイ・ピー・ファイン公式サイト: 製品紹介ページおよびニュースリリース¹⁵
- ・アイ・ピー・ファイン公式ブログ: 展示会出展案内記事⁵⁸¹²
- ・「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」展示会情報: 出展内容とプレゼンテーション概要¹²¹¹
- ・よろず知財コンサルティングのレポート: 来場者・出展者の反応分析¹⁴²⁴²²
- ・note記事（塩谷氏による展示会所感）: 会場での生成AI展示の盛況ぶりに関する記述¹⁶
- ・キャククル「THE調査力AIの口コミ評判」: 導入事例や機能の第三者解説²⁵。

¹²²⁵ THE調査力AIの口コミ評判、導入費用や事例について調査 - 集客・広告戦略メディア「キャククル」

https://www.shopowner-support.net/attracting_customers/manufacturing/manufacturing-general/tip/

³⁴⁶⁷ 2025知財のチカラとDX.pdf

<file:///file-DyZJ9T5MUsVba6zPujgszL>

⁵⁸⁹¹¹¹² アイピーファイン株式会社のブログ

<https://ameblo.jp/ipfine/>

¹⁰ 2025 知財・情報フェア&コンファレンスに出展します | 知財DXのアイ・ピー・ファイン

26 導入事例 | 知財DXのアイ・ピー・ファイン

<https://ipfine.jp/case/>

27 知財の未来は“生成AIの使い方”で決まる - 平井智之/リーガルテック

https://note.com/yutori_jd/n/n3a4330a01691